

# 非行少年と一般少年の比較

— 性格, 親子関係に関して —

高 木 秀 明

## A Comparison between Juvenile Delinquents and Nondelinquents

— Their Characters and Their Relationship with Their Parents —

Hideaki TAKAGI\*

### SUMMARY

The purpose of this study is to investigate the causes of juvenile delinquency by comparing juvenile delinquents and nondelinquents with respect to their character and their relationship with their parents.

The subjects were 274 juvenile delinquents, that is juveniles who had received warnings from policemen, were sent to child consultation centers or a juvenile classification home, or were enrolled in a juvenile reform school, and 1,188 nondelinquent high school students.

The following results were obtained:

(1) There were more fatherless or motherless children, children with divorced parents, and only children among the delinquents than among the nondelinquents.

(2) There were more happy families in the families of the nondelinquents than in the families of the delinquents, though the child-rearing practices of the parents of the nondelinquents were severer, more directive, and less consistent than those of the parents of the delinquents.

(3) The nondelinquents had stronger wills, more endurance, and more of a sense of shame than the delinquents.

(4) The nondelinquents were emotionally more stable, had a fairer standard of judgment, and attained more success than the delinquents.

### は じ め に

一昨年、非行問題研究会（代表：横浜国立大学 依田明）は、神奈川県青少年指導者研修センターの委託により、青少年非行に関する実態調査を行った（非行問題研究会，1984）。筆者はこの調査において、本人と家庭関係の部分を担当した。

一般に、青少年非行の要因としては家庭環境（親子関係、しつけ等）が重視されているが、この調査結果によると、本人の性格の要因も大きく関係していることがわかった。

そこで、本調査ではこれら2つの要因について一般少年を対象に調査を行い、上記の非

\* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

行少年の結果と比較することを目的とする。さらに一般少年に対して、非行に走りたいと思ったことの有無、非行に走りたいと思った理由、非行を思いとどまった理由を調べ、現代社会における青少年の非行化の心理を考察することも目的とする。

## 方 法

### 1. 調 査 項 目

家庭環境に関する項目として、父母の有無、両親の離婚の有無、きょうだい数、親子関係、家庭の雰囲気、養育態度を調べるために18項目用意した。養育態度は田研式親子関係診断テスト（品川・品川、1958）を参考にして、消極的拒否型、積極的拒否型、厳格型、干渉型、溺愛型、矛盾型について各2項目ずつ用意した。本人の性格に関する項目としては、意志力、忍耐力、激情の度合、判断力、基本的情操、恥の意識、達成感の有無を調べるために、各2項目ずつ用意した。

以上の他に、一般少年に対して、非行に走りたいと思ったことの有無、非行に走りたいと思った理由（自由記述）、非行を思いとどまった理由（自由記述）を調べた。

なお、非行を思いとどまっていないと答えた一般少年（中学生男子2名、中学生女子2名、高校生男子4名、高校生女子1名）は、以下のすべての分析から除外した。

### 2. 調 査 対 象 お よ び 調 査 時 期

一般少年は神奈川県内の公立中学1～3年生、および公立高校1～3年生の計1,188名である。非行少年は神奈川県内の警察署に補導された男女少年、神奈川県内の児童相談所に相談中の男女少年、神奈川県内の教護院に在学中の男子少年、神奈川県内の少年鑑別所で入所中の男子少年の計274名である。これらの少年を表1に示したように群分けし、以下の比較においては性と年齢層を対応させ、A群とA'群、B群とB'群、C群とC'群を比較し、一般少年と非行少年の違いを検討する。

非行少年に対する調査は1983年8月～10月、一般少年に対する調査は1984年9月～10月に実施した。

表1 調査対象者数

一般少年群	人 数	非行少年群	人 数
A群（中学生男子）	297	A'群	169
B群（中学生女子）	306	B'群	62
C群（高校生男子）	287	C'群	43
D群（高校生女子）	298		

注) A'群：警察署に補導された中学生男子、児童相談所で相談中の中学生男子、教護院に在学中の男子。いずれも年齢は12～15歳。

B'群：警察署に補導された中学生女子、児童相談所で相談中の中学生女子。年齢は12～15歳。

C'群：少年鑑別所に入所中の男子。年齢は15～19歳。

結 果

1. 家庭環境

(1) 父母の有無, 両親の離婚の有無, きょうだい数

表2に父母の有無を示したが, 一般少年群では父のいない者は1.6~4.2%, 母のいない者は0.0~1.3%であるのに対し, 非行少年群では父のいない者は11.3~27.9%, 母のいない者は6.5~18.6%である。父母のいない者の割合は, 非行少年群の方が有意に高くなっている。

表2 父母の有無

	父				母			
	あり	なし	計	$\chi^2$ 検定	あり	なし	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)			人数(%)	人数(%)		
A 群	292 (98.3)	5 (1.7)	297	***	294 (99.3)	2 (0.7)	296	***
A' 群	134 (80.7)	32(19.3)	166		141( 83.9)	27(16.1)	168	
B 群	301 (98.4)	5( 1.6)	306	***	302( 98.7)	4( 1.3)	306	*
B' 群	55 (88.7)	7(11.3)	62		58( 93.5)	4( 6.5)	62	
C 群	275 (95.8)	12( 4.2)	287	***	285( 99.3)	2( 0.7)	287	***
C' 群	31 (72.1)	12(27.9)	43		35( 81.4)	8(18.6)	43	
D 群	290 (97.3)	8( 2.7)	298		298(100.0)	0( 0.0)	298	

\* p<.05, \*\*\* p<.001

表3 両親の離婚の有無

	あり	なし	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	18 ( 6.1)	279 (93.9)	297	***
A' 群	63 (38.0)	103 (62.0)	166	
B 群	16 ( 5.3)	288 (94.7)	304	***
B' 群	18 (29.5)	43 (70.5)	61	
C 群	10 ( 3.5)	277 (96.5)	287	***
C' 群	17 (39.5)	26 (60.5)	43	
D 群	7 ( 2.3)	291 (97.7)	298	

\*\*\* p<.001

両親の離婚の有無を表3でみると、非行群の場合29.5~39.5%とかなり多くの者が両親の離婚を体験しており、一般群との間に有意差がみられる。数値の大きさからみると、父母のいないことよりも、両親の離婚の方が子どもの非行化に大きな影響を及ぼすように考えられる。以上の結果からみると、欠損家庭の少年は非行化しやすいという社会の一般通念が裏づけられているといえよう。

表4にきょうだい数を示したが、相対的に非行群にはひとりっ子が多く、一般群ではふたりっ子が多いようである。ひとりっ子は問題をもちやすいといわれたり（依田，1967，1981），ふたりっ子家族の問題点が指摘されたり（依田・福島，1981）しているが、本研究では、ひとりっ子はやはり問題をもちやすいが、ふたりっ子の場合にはそれほど問題をもたないという結果が得られた。また男子において、非行群は一般群よりも3人以上のきょうだいをもっている者が多いことも指摘される。

表4 きょうだい数

	なし	1人あり	2人あり	3人以上あり	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	20 (6.8)	167 (56.6)	78 (26.4)	30 (10.2)	295	***
A' 群	24 (14.4)	69 (41.3)	39 (23.4)	35 (21.0)	167	
B 群	16 (5.2)	183 (59.8)	74 (24.2)	33 (10.8)	306	***
B' 群	11 (18.0)	24 (39.3)	20 (32.8)	6 (9.8)	61	
C 群	24 (8.4)	176 (61.3)	71 (24.7)	16 (5.6)	287	***
C' 群	16 (37.2)	13 (30.2)	8 (18.6)	6 (14.0)	43	
D 群	24 (8.1)	182 (61.1)	80 (26.8)	12 (4.0)	298	

\*\*\*  $p < .001$

表5 父親から大事にされていると思いますか

	いつもそう思う	時々そう思う	そうは思わない	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	72 (24.7)	158 (54.3)	61 (21.0)	291	
A' 群	24 (18.0)	71 (53.4)	38 (28.6)	133	
B 群	86 (28.6)	156 (51.8)	59 (19.6)	301	
B' 群	15 (27.8)	24 (44.4)	15 (27.8)	54	
C 群	87 (31.9)	144 (52.7)	42 (15.4)	273	
C' 群	11 (35.5)	18 (58.1)	2 (6.5)	31	
D 群	123 (42.9)	125 (43.6)	39 (13.6)	287	

表6 母親から大事にされていると思いますか

	いつもそう思う	時々そう思う	そうは思わない	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	80 (27.2)	164 (55.8)	50 (17.0)	294	
A' 群	40 (28.6)	74 (52.9)	26 (18.6)	140	
B 群	94 (31.1)	160 (53.0)	48 (15.9)	302	
B' 群	14 (24.6)	30 (52.6)	13 (22.8)	57	
C 群	94 (33.2)	157 (55.5)	32 (11.3)	283	*
C' 群	19 (54.3)	15 (42.9)	1 (2.9)	35	
D 群	140 (47.5)	120 (40.7)	35 (11.9)	295	

\*  $p < .05$

表7 家庭の雰囲気はなごやかで楽しいですか

	いつも楽しい	時々楽しい	あまり楽しくない	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	106 (35.7)	142 (47.8)	49 (16.5)	297	***
A' 群	30 (17.8)	78 (46.2)	61 (36.1)	169	
B 群	128 (41.8)	136 (44.4)	42 (13.7)	306	***
B' 群	15 (24.6)	25 (41.0)	21 (34.4)	61	
C 群	104 (36.6)	135 (47.5)	45 (15.8)	284	
C' 群	17 (39.5)	19 (44.2)	7 (16.3)	43	
D 群	144 (48.6)	122 (41.2)	30 (10.1)	296	

\*\*\*  $p < .001$

(2) 親子関係、家庭の雰囲気

表5、表6に父母から大事にされていると思うかを調べた結果を示したが、一般群と非行群の間に有意な差はほとんどみられない。わずかに、C群とC'群の比較において、非行群の方が一般群よりも母親から大事にされていると思う者が多くなっているが、これは、子どもが鑑別所に送られるほどの非行に走った結果、母親の態度が変化したとも考えられる。以上のことから、父母から大事にされないということが非行化につながるとはいえない。

家庭の雰囲気については表7に示したが、中学生においては、家庭の雰囲気はいつも楽しいと答えた者は一般群の方が多く、あまり楽しくないと答えた者は非行群の方が多くなっている。これからみても、家庭のなごやかさや楽しさは非行化を防止する上で重要な要

因と考えられる。

(3) 養育態度

親の養育態度を調べた結果を表8～表19に示した。表8, 表9は消極的拒否型, 表10, 表11は積極的拒否型, 表12, 表13は厳格型, 表14, 表15は干渉型, 表16, 表17は溺愛型, 表18, 表19は矛盾型である。これらの結果からわかることは, 養育態度と子どもの非行化との間には明確で一貫した因果関係は存在しないが, 部分的には関連がみられるということである。

有意な関連のあるものをみていくと, まず表8において, 子どもの話しかけをいつもまじめに聞かないという親の態度は子どもの非行化を促進するようである。しかしそれに対して, まじめに聞く場合も非行化を促進するという結果が得られている。これは一見する

表8 あなたの親は, あなたが話しかけても, まじめに聞いてくれなかったことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	30 (10.1)	179 (60.3)	88 (29.6)	297	
A' 群	18 (11.2)	81 (50.3)	62 (38.5)	161	
B 群	24 (7.8)	196 (64.1)	86 (28.1)	306	*
B' 群	10 (16.1)	31 (50.0)	21 (33.9)	62	
C 群	32 (11.2)	142 (49.8)	111 (38.9)	285	**
C' 群	6 (15.4)	9 (23.1)	24 (61.5)	39	
D 群	22 (7.4)	158 (53.2)	117 (39.4)	297	

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$

表9 あなたの親は, あなたとの約束を忘れてしまったことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	47 (15.8)	212 (71.4)	38 (12.8)	297	
A' 群	18 (11.2)	113 (70.2)	30 (18.6)	161	
B 群	24 (7.8)	237 (77.5)	45 (14.7)	306	
B' 群	3 (4.8)	49 (79.0)	10 (16.1)	62	
C 群	26 (9.1)	192 (67.4)	67 (23.5)	285	
C' 群	3 (7.7)	25 (64.1)	11 (28.2)	39	
D 群	12 (4.0)	213 (71.5)	73 (24.5)	298	

と矛盾した結果であるが、いつもまじめに聞かない場合は、子どもは自分が無視されていると思ひ、それが非行化につながるのではあるが、まじめに聞く場合は、子どもの心情を無視して大人の常識で捉え、道義的な態度で接しがちになるため、それへの反発が非行化につながるのではないかと考えられる。

表10においても、表8と同様な結果が得られている。すなわち、いつも子どもをけなしたり、バカにしたりすると非行化を促すが、逆に、けなしたり、バカにしたりしなくても非行化するという結果である。いつもけなされたり、バカにされたりする子どもはそれに反発するのであるが、その逆の場合には、自分を反省する機会が少なくなるために心が増長し、ささいな挫折でも非行化につながりやすくなるのではないかと考えられる。表11

表10 あなたの親は、あなたをけなしたり、バカにしたことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	35 (11.8)	139 (46.8)	123 (41.4)	297	
A' 群	25 (15.5)	61 (37.9)	75 (46.6)	161	
B 群	25 ( 8.2)	157 (51.3)	124 (40.5)	306	*
B' 群	10 (16.1)	21 (33.9)	31 (50.0)	62	
C 群	28 ( 9.8)	128 (44.9)	129 (45.3)	285	
C' 群	1 ( 2.6)	14 (35.9)	24 (61.5)	39	
D 群	20 ( 6.7)	139 (46.6)	139 (46.6)	298	

\*  $p < .05$

表11 あなたの親は、あなたのプライドを傷つけたことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	24 ( 8.1)	146 (49.2)	127 (42.8)	297	**
A' 群	11 ( 6.8)	56 (34.8)	94 (58.4)	161	
B 群	27 ( 8.8)	166 (54.2)	113 (36.9)	306	
B' 群	6 ( 9.8)	28 (45.9)	27 (44.3)	61	
C 群	26 ( 9.1)	150 (52.6)	109 (38.2)	285	**
C' 群	1 ( 2.6)	11 (28.2)	27 (69.2)	39	
D 群	24 ( 8.1)	178 (59.9)	95 (32.0)	297	

\*\*  $p < .01$

においては、非行群の方がプライドを傷つけられたことが少ないという結果が示されている。非行少年には精神性やプライドをもっている者が少ないのであろうか。それとも、プライドが傷ついても非行化に結びつかず、それ以外の要因（物質的欲求など）によって非行化するのでしょうか。

表12をみると、非行群の親は自分の考えを無理やり押しつけることが少ないという結果が示されている。家庭でのしつけにおいては対話も重要であるが、親の見識に基づく厳しいしつけも重要であるといえよう。

表14においても同様の結果が示されている。一般群の親は非行群の親よりも子どもができることでも手伝ったり、指図したりしている。親の細々とした注意もしつけの上では必

表12 あなたの親は、自分が良いと思っていることをあなたに無理やり押しつけたことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	37 (12.6)	112 (38.1)	145 (49.3)	294	***
A' 群	14 ( 8.7)	59 (36.6)	88 (54.7)	161	
B 群	21 ( 6.9)	154 (50.3)	131 (42.8)	306	
B' 群	8 (13.1)	24 (39.3)	29 (47.5)	61	
C 群	36 (12.7)	147 (51.9)	100 (35.3)	283	
C' 群	2 ( 5.1)	10 (25.6)	27 (69.2)	39	
D 群	29 ( 9.8)	147 (49.5)	121 (40.7)	297	

\*\*\*  $p < .001$

表13 あなたの親は、礼儀、態度、規則などを、あなたにやかましくいったことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	83 (27.9)	144 (48.5)	70 (23.6)	297	
A' 群	46 (28.6)	82 (50.9)	33 (20.5)	161	
B 群	112 (36.6)	145 (47.4)	49 (16.0)	306	
B' 群	21 (33.9)	30 (48.4)	11 (17.7)	62	
C 群	89 (31.2)	143 (50.2)	53 (18.6)	285	
C' 群	12 (30.8)	21 (53.8)	6 (15.4)	39	
D 群	130 (43.8)	138 (46.5)	29 ( 9.8)	297	



表14 あなたの親は、あなたが自分でできることでも手伝ったり、指図したりしたことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	41 (13.8)	152 (51.2)	104 (35.0)	297	*
A' 群	13 ( 8.1)	75 (46.9)	72 (45.0)	160	
B 群	23 ( 7.5)	162 (52.9)	121 (39.5)	306	
B' 群	2 ( 3.3)	29 (48.3)	29 (48.3)	60	
C 群	19 ( 6.7)	151 (53.4)	113 (39.9)	283	
C' 群	0 ( 0.0)	16 (41.0)	23 (59.0)	39	
D 群	22 ( 7.4)	118 (39.7)	157 (52.9)	297	

\* p<.05

表15 あなたの親は、あなたの勉強や友達、服装などについて口うるさく注意したことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	42 (14.1)	128 (43.1)	127 (42.8)	297	***
A' 群	42 (26.3)	75 (46.9)	43 (26.9)	160	
B 群	34 (11.1)	140 (45.8)	132 (43.1)	306	
B' 群	10 (16.7)	31 (51.7)	19 (31.7)	60	
C 群	50 (17.6)	120 (42.3)	114 (40.1)	284	
C' 群	8 (20.5)	18 (46.2)	13 (33.3)	39	
D 群	40 (13.5)	138 (46.5)	119 (40.1)	297	

\*\*\* p<.001

要であるといえよう。ところが表15にみられるように、勉強や友達、服装などについては口うるさく注意しない方が、子どもの反発が少なく、非行化を防ぐようである。

溺愛型については、表16、表17にみられるように、非行群に溺愛型の親が少し多いようであるが、その関連は有意ではない。

表18をみると、一般群の親の方が、子どもに対する態度は気分によって変化するという結果が得られている。このような結果をみると、非行化には、親の養育態度よりも本人の性格的要因の方が強く関わっているのではないかと考えられる。

表 16 あなたの親は、あなたを大切にすぎ、甘やかして育ててきましたか

	はい(とても)	はい(すこし)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	12 ( 4.1)	98 (33.1)	186 (62.8)	296	
A' 群	12 ( 7.5)	56 (35.0)	92 (57.5)	160	
B 群	6 ( 2.0)	84 (27.5)	216 (70.6)	306	
B' 群	1 ( 1.7)	18 (30.0)	41 (68.3)	60	
C 群	20 ( 7.1)	106 (37.6)	156 (55.3)	282	
C' 群	4 (10.3)	19 (48.7)	16 (41.0)	39	
D 群	18 ( 6.1)	85 (28.6)	194 (65.3)	297	

表 17 あなたの親は、あなたが頼めばたいのことはしてくれましたか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	29 ( 9.8)	174 (58.6)	94 (31.6)	297	
A' 群	22 (13.8)	93 (58.1)	45 (28.1)	160	
B 群	29 ( 9.5)	191 (62.4)	86 (28.1)	306	
B' 群	7 (11.7)	35 (58.3)	18 (30.0)	60	
C 群	31 (11.0)	166 (58.7)	86 (30.4)	283	
C' 群	3 ( 7.7)	26 (66.7)	10 (25.6)	39	
D 群	60 (20.2)	172 (57.9)	65 (21.9)	297	

表 18 あなたの親は、そのときの気分によってあなたに対する態度が変わったことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	76 (25.6)	144 (48.5)	77 (25.9)	297	
A' 群	28 (17.5)	86 (53.8)	46 (28.8)	160	
B 群	54 (17.6)	178 (58.2)	74 (24.2)	306	
B' 群	11 (18.3)	33 (55.0)	16 (26.7)	60	
C 群	43 (15.2)	147 (51.9)	93 (32.9)	283	*
C' 群	0 ( 0.0)	21 (53.8)	18 (46.2)	39	
D 群	34 (11.4)	167 (56.2)	96 (32.3)	297	

\*  $p < .05$

表19 あなたの親は、普段はあなたをほったらかしにしておくのに、  
ときにはうるさいほど世話をやいたことがありますか

	はい(いつも)	はい(ときどき)	いいえ	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	20 ( 6.8)	104 (35.3)	171 (58.0)	295	
A' 群	13 ( 8.1)	53 (33.1)	94 (58.8)	160	
B 群	11 ( 3.6)	96 (31.4)	199 (65.0)	306	
B' 群	5 ( 8.3)	16 (26.7)	39 (65.0)	60	
C 群	28 ( 9.9)	103 (36.4)	152 (53.7)	283	
C' 群	1 ( 2.6)	16 (41.0)	22 (56.4)	39	
D 群	18 ( 6.1)	73 (24.7)	204 (69.2)	295	

## 2. 本人の性格

### (1) 意 志 力

表20, 表21をみると、非行群は一般群よりも、勉強の予習、復習は少ししかせず、親と約束した家の手伝いも少ししかできなかったという者が多い。中学生の場合、自分のやるべきことをきちんとできないという意志力の弱さは、非行を促進するといえよう。

### (2) 忍 耐 力

表22, 表23によって忍耐力と非行との関連をみると、ほしいものを約束の日まで我慢するという自分の欲求のコントロールに関しては、一般群は非行群よりもすぐれている。しかし、予防注射や苦い薬から逃げないという外的なストレスに対する忍耐力に関しては、

表20 勉強の予習、復習はきちんとやる方でしたか

	きちんとやった	だいたいやった	少ししかやらなかった	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	8 ( 2.7)	91 (30.6)	198 (66.7)	297	***
A' 群	8 ( 4.8)	23 (13.7)	137 (81.5)	168	
B 群	5 ( 1.6)	69 (22.5)	232 (75.8)	306	
B' 群	1 ( 1.6)	13 (21.0)	48 (77.4)	62	
C 群	22 ( 7.7)	73 (25.5)	191 (66.8)	286	
C' 群	1 ( 2.3)	7 (16.3)	35 (81.4)	43	
D 群	3 ( 1.0)	108 (36.2)	187 (62.8)	298	

\*\*\* p<.001

表 21 親と約束した家の手伝い(玄関の清掃, 犬の散歩など)はきちんとできましたか

	きちんとできた	だいたいできた	少ししかでき なかった	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	68 (22.9)	137 (46.1)	92 (31.0)	297	***
A' 群	21 (12.6)	58 (34.7)	88 (52.7)	167	
B 群	67 (21.9)	181 (59.2)	58 (19.0)	306	***
B' 群	10 (16.1)	25 (40.3)	27 (43.5)	62	
C 群	55 (19.4)	129 (45.4)	100 (35.2)	284	
C' 群	7 (16.3)	24 (55.8)	12 (27.9)	43	
D 群	46 (15.4)	179 (60.1)	73 (24.5)	298	

\*\*\* p&lt;.001

一般群と非行群の間に有意な差はみられない。中学生男子の場合、自己の欲求のコントロールができないと、非行化しやすいといえることができる。

## (3) 激情の度合

表24, 表25によって激情の度合をみると、非行群の方が一般群よりも、自分の大切なものを親しい人にこわされた時や、自分が人からバカにされたり非難されたりした時に、カッとなって怒った者の割合が高い。激情によって理性を失うと大胆な行動をとりやすくなり、非行化が促進されるのは当然である。この傾向は特に中学生男子にみられる。

表 22 小さい時、ほしいものを誕生日やクリスマスなど  
約束の日まで我慢することができましたか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	224 (75.4)	73 (24.6)	297	***
A' 群	98 (59.0)	68 (41.0)	166	
B 群	248 (81.3)	57 (18.7)	305	
B' 群	48 (77.4)	14 (22.6)	62	
C 群	245 (86.0)	40 (14.0)	285	
C' 群	37 (86.0)	6 (14.0)	43	
D 群	264 (88.9)	33 (11.1)	297	

\*\*\* p&lt;.001

表 23 小さい時、予防注射や苦い薬がいやで泣いたり逃げたりしましたか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	88 (29.6)	209 (70.4)	297	
A' 群	54 (32.1)	114 (67.9)	168	
B 群	117 (38.2)	189 (61.8)	306	
B' 群	21 (33.9)	41 (66.1)	62	
C 群	67 (23.4)	219 (76.6)	286	
C' 群	6 (14.0)	37 (86.0)	43	
D 群	89 (29.9)	209 (70.1)	298	

表 24 あなたの大切なものを親しい人にこわされた時どうしましたか

	カッとなって怒った	腹が立ったけど悲しかった	悲しくなってガックリした	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	122 (41.6)	145 (49.5)	26 ( 8.9)	293	***
A' 群	100 (59.9)	41 (24.6)	26 (15.6)	167	
B 群	68 (22.2)	203 (66.3)	35 (11.4)	306	
B' 群	16 (25.8)	33 (53.2)	13 (21.0)	62	
C 群	117 (42.1)	127 (45.7)	34 (12.2)	278	
C' 群	16 (37.2)	22 (51.2)	5 (11.6)	43	
D 群	45 (15.2)	189 (63.9)	62 (20.9)	296	

\*\*\* p<.001

表 25 自分が人からバカにされたり非難されたりした時どうしましたか

	カッとなって怒った	くやしかったが悲しくてみじめになった	はずかしくてガックリした	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)	人数(%)		
A 群	150 (50.8)	125 (42.4)	20 ( 6.8)	295	*
A' 群	106 (63.9)	49 (29.5)	11 ( 6.6)	166	
B 群	85 (27.8)	186 (60.8)	35 (11.4)	306	
B' 群	26 (42.6)	31 (50.8)	4 ( 6.6)	61	
C 群	119 (43.0)	141 (50.9)	17 ( 6.1)	277	
C' 群	25 (58.1)	17 (39.5)	1 ( 2.3)	43	
D 群	60 (20.4)	196 (66.7)	38 (12.9)	294	

\* p<.05

## (4) 判断力

表26, 表27によって判断力と非行との関連をみると, 中学生男子では一般群の方が非行群よりも, ほしい品物がある時, それが自分に分相応か否かを考える者が多く, C群とC'群の比較では, 自分の判断で行動する者は一般群の方が多くなっている。男子において, 非行群は一般群よりも判断力が劣るといえよう。

表26 何か品物(靴, 洋服, ステレオなど)をほしい時, それが自分に分相応か, 不相応か(自分にとって値段が高すぎるか, そうでないか)を考えますか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	233 (78.5)	64 (21.5)	297	***
A' 群	90 (53.9)	77 (46.1)	167	
B 群	260 (85.0)	46 (15.0)	306	
B' 群	49 (79.0)	13 (21.0)	62	
C 群	221 (77.0)	66 (23.0)	287	
C' 群	38 (88.4)	5 (11.6)	43	
D 群	270 (90.6)	28 (9.4)	298	

\*\*\*  $p < .001$

表27 何かをする時, 自分の判断で行動する方ですか, 皆の意見についていく方ですか

	自分の判断で 行動する	皆の意見に ついていく	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	145 (49.3)	149 (50.7)	294	*
A' 群	80 (47.9)	87 (52.1)	167	
B 群	129 (42.3)	176 (57.7)	305	
B' 群	31 (50.0)	31 (50.0)	62	
C 群	199 (69.6)	87 (30.4)	286	
C' 群	22 (51.2)	21 (48.8)	43	
D 群	153 (51.9)	142 (48.1)	295	

\*  $p < .05$

## (5) 基本的情操

基本的情操を養う体験の有無を表28, 表29によってみると, 中学生では男女とも, 一般

群の方が非行群よりも、絵本を読んでもらったり、おとぎ話をしてもらったりした者が多く、また動物を飼ったり、植物を育てたりした者も多い。これらの体験は人間としての基本的情操を形成し、他への思いやりや愛情を育む基礎となるものであるため、当然な結果といえよう。しかしC群とC'群の比較では、非行群の方が動植物の世話をした者が多いという、逆の結果が得られている。この結果については不可解である。

表28 小さい時、家族の人から絵本を読んでもらったり、おとぎ話をしてもらったりしましたか

	はい	いいえ	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	203 (68.6)	93 (31.4)	296	***
A' 群	81 (49.1)	84 (50.9)	165	
B 群	236 (77.1)	70 (22.9)	306	*
B' 群	40 (64.5)	22 (35.5)	62	
C 群	206 (72.0)	80 (28.0)	286	
C' 群	25 (58.1)	18 (41.9)	43	
D 群	239 (80.5)	58 (19.5)	297	

\* p<.05, \*\*\* p<.001

表29 自分からすすんで、動物を飼ったり、植物を育てたりして世話をしたことがありますか

	はい	いいえ	計	χ <sup>2</sup> 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	226 (76.1)	71 (23.9)	297	***
A' 群	103 (61.3)	65 (38.7)	168	
B 群	250 (81.7)	56 (18.3)	306	***
B' 群	39 (62.9)	23 (37.1)	62	
C 群	203 (70.7)	84 (29.3)	287	*
C' 群	37 (86.0)	6 (14.0)	43	
D 群	210 (70.7)	87 (29.3)	297	

\* p<.05, \*\*\* p<.001

(6) 恥の意識

表30, 表31によって恥の意識を比較すると、中学生男子において、一般群の方が非行群よりも、人にばれないで悪いことをした後、自分にはずかしくなったという者が多くなっ

ている。その他の群では有意な差はみられないが、中学生男子では良心の呵責を感じない者は非行化しやすいといえよう。

表30 友人がもっているもの（ラジカセ、自転車など）を自分だけ持っていないとはずかしかったですか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	105 (35.5)	191 (64.5)	296	
A' 群	54 (32.1)	114 (67.9)	168	
B 群	121 (39.7)	184 (60.3)	305	
B' 群	19 (30.6)	43 (69.4)	62	
C 群	99 (34.9)	185 (65.1)	284	
C' 群	18 (41.9)	25 (58.1)	43	
D 群	128 (43.5)	166 (56.5)	294	

表31 人にばれないで悪いこと（借りたものを返さなかった、カンニング、万引き、家のお金の持ち出しなど）をした後、自分にはずかしくなりましたか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	211 (75.1)	70 (24.9)	281	**
A' 群	104 (63.0)	61 (37.0)	165	
B 群	239 (81.0)	56 (19.0)	295	
B' 群	46 (74.2)	16 (25.8)	62	
C 群	214 (78.7)	58 (21.3)	272	
C' 群	38 (88.4)	5 (11.6)	43	
D 群	256 (91.8)	23 ( 8.2)	279	

\*\*  $p < .01$

#### (7) 達成感の有無

表32、表33によって達成感の有無をみると、中学生においては、一般群の方が非行群よりも、自分で困難なことや、仲間と大きな目的をやりとげたことのある者が多くなっている。これらの体験は、自信や誇りをもたせ、協調性や社会性を高めるため、非行化を防ぐことにつながるであろう。



表 32 自分でやろうと決めた難しいこと（プラモデルの組立て、昆虫標本、大作品の完成など）を1つでもやりとげたことがありますか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	274 (92.6)	22 ( 7.4)	296	***
A' 群	135 (80.4)	33 (19.6)	168	
B 群	218 (71.5)	87 (28.5)	305	
B' 群	45 (72.6)	17 (27.4)	62	
C 群	264 (92.0)	23 ( 8.0)	287	
C' 群	40 (93.0)	3 ( 7.0)	43	
D 群	258 (87.8)	36 (12.2)	294	

\*\*\* p<.001

表 33 仲間と一緒にあって1つの大きな目的（学園祭、高い山に登るなど）をやりとげたことがありますか

	はい	いいえ	計	$\chi^2$ 検定
	人数(%)	人数(%)		
A 群	239 (80.5)	58 (19.5)	297	***
A' 群	84 (50.0)	84 (50.0)	168	
B 群	254 (83.3)	51 (16.7)	305	**
B' 群	41 (66.1)	21 (33.9)	62	
C 群	253 (88.8)	32 (11.2)	285	
C' 群	38 (88.4)	5 (11.6)	43	
D 群	280 (94.3)	17 ( 5.7)	297	

\*\* p<.01, \*\*\* p<.001

### 3. 一般少年による非行化の要因の検討

以上、一般少年と非行少年を比較しながら、非行化の要因を調べてきたが、ここでは一般少年を対象にして非行化の要因を検討する。

まず、今までに、非行に走りたいと思ったことの有無を調べた結果を表34に示した。その結果、16.7~33.7%の者が非行に走りたいと思ったことがあると答えている。これを性別、発達別に比較したところ、発達のには中学一高校生間には有意な差はみられなかったが、男女の比較においては中学生で有意な性差がみられ、中学生女子の方が中学生男子よりも非行に走りたいと思った者が多く、男子の約2倍存在した。これは、女子の方が、家

庭, 学校, 社会の中で, 男子よりも多くのストレスや矛盾を感じたり, 体験したりしているためであろう。近年, 女子非行の増加傾向が指摘されているが (総務庁青少年対策本部, 1985), この結果はそれを裏づけるものとも考えられる。

表 34 今までに, 非行に走りたいと思ったことの無有

	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
あり	49 (16.7)	101 (33.7)	59 (20.8)	81 (27.6)
なし	245 (83.3)	199 (66.3)	224 (79.2)	212 (72.4)
計	294 (100.0)	300 (100.0)	283 (100.0)	293 (100.0)
$\chi^2$ 検定	***			

\*\*\*  $p < .001$

次に, 非行に走りたいと思ったことのある者に対して, その理由を調べた結果を表35に示した。10%以上の理由をあげると, 中学生では, 男女共に「親への不満・反発」が最も多く, 次いで「教師への不満・反発」, 「自分の現状や社会への不満・反発」, 「非行へのあこがれ・好奇心」, 「友達への不満・反発」という順である。高校生男子では「自分の現状や社会への不満・反発」が最も多く, 次いで「非行へのあこがれ・好奇心」, 「親への不満・反発」, 「教師への不満・反発」の順であり, 高校生女子では「親への不満・反発」, 「自分の現状や社会への不満・反発」, 「非行へのあこがれ・好奇心」の順である。中学, 高校

表 35 非行に走りたいと思った理由 (重複回答)

	中学生男子 (49人)	中学生女子 (101人)	高校生男子 (59人)	高校生女子 (81人)
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
1. 非行へのあこがれ・好奇心	6 (12.2)	12 (11.9)	17 (28.8)	17 (21.0)
2. 自分の現状や社会への不満・反発	6 (12.2)	13 (12.9)	20 (33.9)	17 (21.0)
3. 親への不満・反発	23 (46.9)	65 (64.4)	9 (15.3)	24 (29.6)
4. 教師への不満・反発	13 (26.5)	31 (30.7)	6 (10.2)	6 (7.4)
5. 友達への不満・反発	5 (10.2)	11 (10.9)	2 (3.4)	2 (2.5)
6. 勉強からの逃避	2 (4.1)	7 (6.9)	5 (8.5)	7 (8.6)
7. 両親の不仲	0 (0.0)	5 (5.0)	1 (1.7)	3 (3.7)
8. 友達からの誘い	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)
9. まじめで良い子という周りからの評価に対する反発	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (8.6)
10. その他	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	1 (1.2)
11. 無答, 不明	5 (10.2)	5 (5.0)	12 (20.3)	15 (18.5)
計	62 (126.5)	149 (147.5)	74 (125.4)	99 (122.2)

生共に周囲の人物や自分の現状への不満・反発が理由として多くあげられているが、その内容には性別、発達別に多少の違いがみられる。「親や教師への不満・反発」は中学生ではかなり多いが、高校生になると減少し、替って「自分の現状や社会への不満・反発」、「非行へのあこがれ・好奇心」が多くなる。また「友達への不満・反発」も高校生になると減少し、「勉強からの逃避」という理由は高校生になると増加する。男女を比較すると「親への不満・反発」、「親の不仲」という理由は女子の方が多い。「友達からの誘い」という理由はほとんどなく、「まじめで良い子という周りからの評価に対する反発」という理由は高校生女子のみにみられる。これは、女子特有のいわゆる「ブリッ子」を脱皮して、本音で生きたいという欲求の現われとも考えられる。

最後に、非行を思いとどまった理由を調べた結果を表36に示した。この表をみると、いずれの群も、「非行に走っても無意味、自分のためにならない」という理由が圧倒的に多い。これには種々の打算も含まれているだろうが、とにかく正しい判断力をもっていることがわかる。「親に心配かけたくない」からという理由も好ましい理由であるが、中学生女子と高校生男女に約1割存在している。「教師からの影響」で思いとどまった者がほとんどいないのは、教師と生徒とのコミュニケーションの不足、教師に対する生徒の不信感、未然に生徒の不満に気づこうとする教師の姿勢の不十分さ、等によるであろう。教師としては反省すべき点である。それに対して「友達・先輩からの影響」で思いとどまった者は2.0～11.9%存在し、特に高校生で増加している。「勇気がなかった」からという理由は4.1～19.8%存在し、これも高校生で増えているが、この理由は消極的な意味で自分を大切にするという考え、ひいては「非行に走っても無意味、自分のためにならない」とい

表36 非行を思いとどまった理由（重複回答）

	中学生男子 (49人)	中学生女子 (101人)	高校生男子 (59人)	高校生女子 (81人)
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
1. 非行に走っても無意味、自分のためにならない	19 ( 38.8)	52 ( 51.5)	27 ( 45.8)	32 ( 39.5)
2. 他にやりたいことがあった	2 ( 4.1)	0 ( 0.0)	3 ( 5.1)	1 ( 1.2)
3. 親に心配かけたくない	1 ( 2.0)	12 ( 11.9)	6 ( 10.2)	9 ( 11.1)
4. 他人に迷惑がかかる	1 ( 2.0)	0 ( 0.0)	4 ( 6.8)	1 ( 1.2)
5. 親がやさしくしてくれた、認めてくれた	3 ( 6.1)	4 ( 4.0)	3 ( 5.1)	3 ( 3.7)
6. 教師からの影響	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	1 ( 1.7)	2 ( 2.5)
7. 友達・先輩からの影響	1 ( 2.0)	6 ( 5.9)	7 ( 11.9)	6 ( 7.4)
8. 勇気がなかった	2 ( 4.1)	5 ( 5.0)	5 ( 8.5)	16 ( 19.8)
9. リンチ、しかえしが恐かった	0 ( 0.0)	5 ( 5.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)
10. 世間体を気にした	1 ( 2.0)	1 ( 1.0)	2 ( 3.4)	6 ( 7.4)
11. 時間がたって忘れた	4 ( 8.2)	1 ( 1.0)	0 ( 0.0)	2 ( 2.5)
12. その他	3 ( 6.1)	4 ( 4.0)	3 ( 5.1)	6 ( 7.4)
13. 無答、不明	15 ( 30.6)	23 ( 22.8)	17 ( 28.8)	18 ( 22.2)
計	52 (106.1)	113 (111.9)	78 (132.2)	102 (125.9)

う理由に通じるところがあるとも考えられる。「リンチ、しかえしが恐かった」という理由は、中学生女子のみにみられるが、中学生女子の非行集団の陰湿さとそれに対する一般生徒の恐怖感の強さがうかがえる。

## 考 察

以上みてきたように、少年の非行化の要因としては、家庭環境と本人の性格の両者が密接に関わっていると考えられる。本研究ではこの2つの要因しか取り上げなかったが、友人、学校、社会等のその他の要因も当然大きく関連している。ここでは、上記2つの要因について考えてみたい。

家庭環境については、両親の離婚、父母の喪失、家庭の不和が非行少年群に多い。これらはいずれも精神的苦痛を子どもに与えるものである。非行少年群は基本的情操体験が少なく、激情に走りやすいという結果とも合わせて考えると、子どもの非行化には、情緒的安定が大きく関わっていると推測される。情緒の安定の基礎となるものは、乳幼児期の母親の肌のぬくもりや、やさしい子守歌である。母親の愛情や慈しみを肌で感じ、心で感じることによって、思いやり、やさしさ、他人を愛する豊かな心をもつ子どもが、育まれていくのである。

しかし、現在の家庭状況や夫婦関係の実態をみると、離婚の増加や父親の単身赴任による母子家庭的状況など、事態は必ずしも好ましいものとはいえない。また現在は、子どもを生んでも母である以前に、妻であり、女であることを主張する女性が増えてきている。男性にも、「子どもが生まれたら、子どもばかりに手をかけて、自分のことはかまってくれない」と不満をいう夫が出現してきており、極端な場合には子どもをライバル視することになる。このように、自分達が生んだ子どもよりも、自分を優先させる親が増えてきているようである。その方が、自分にとって人間らしい、充実した人生が送れると考えているようである。それを示す一例として、あるデパートの洋服広告に「明るい父とセクシーな母のあいだに生まれた僕は、……」というコピーがある。しかし子どもは、やさしい母、あたたかい母をこそ求めても、セクシーな母は求めていないのである。子どもを生み、育てるにはどのような心構えが必要か、一考を促したい。

さらに、少年の非行化の要因を考える時、常に問題にされる要因として親の養育態度がある。子どもを放任した、厳格すぎた、子どもの人格を無視した、親の考える枠にはめようとした、甘やかしすぎた、等の多くの養育態度が非難的となる。しかし本研究は、非行少年群の親の養育態度は一般群よりもむしろ好ましいという結果を示している。親はそれぞれの生き方や価値観に基づいて子どもを養育する。その際、親の養育態度と子どもの個性や素質が合わない場合は多々ある。商家の跡継ぎが芸術家を指向したり、医者の子が小説家を指向したりする。このような場合、子どもは親に反発し、表35に示されているように、非行に走りたいと思うこともあるであろう。しかし、多くの子どもは親とのずれや摩擦に耐え、精神的に鍛えられ、成長していくのである。このことを考えると、非行化

の問題には本人の性格的要因がいかに重要であるかがよくわかる。

そこで、本人の性格についての結果をみると、一般少年群は情緒が安定しているだけでなく、意志力、忍耐力、判断力に優れ、己れにはじめる心と、大きな目標を達成したという心の充実感をもっていた。逆に非行少年群は、これらすべての面で劣っていたのである。このような性格面での弱さをもっている子どもに対しては、家庭がいくらしっかりしたしつけを行っても、現在は、テレビ、雑誌等の情報媒体が各家庭のしつけを妨害するような情報を流すために、個々のしつけが有効に機能することが困難な状況となっている。そして子ども達は、自分勝手な理屈をつけて、自己の欲求と感情の満足のために安易な道へと進んで行く。そこで子ども達に対しては、自分の行為の責任を他者に押しつける「くれない族」的傾向を助長させないためには、何が必要かを考えると、親や教師等の子どもと直接かかわる人々ばかりでなく、社会全体の高い見識が必要となってくる。

そして子どもにとっては、何か困難なことを家族や仲間と共にやりとげ、その過程において忍耐力、意志力、判断力、協調性を培い、それと共に人間としての誇りをもって、人生に立ち向かう姿勢が大切なこととなるのである。

最後に、非行に走りたいと思った理由、思いとどまった理由をみると、走りたいと思った理由としては「親への不満・反発」が多いが、これは親におこられたから、親が口うるさいから、親がおもしろくないから、むかついたから、といったような単純な理由が大部分であり、自分の心の憂さ晴らし程度であるように思われる。しかし中には、親や教師が身勝手なことばかりいたり、自分のことを理解してくれなかったりするために、非行に走りたいと思ったという少年もいる。この理由が高校生に多かったのは、この時期特有の主観性や理想化等の心理的特徴の現われであり、精神的発達にともなって非行化の心理も変化することを示している。また女子には、両親の不仲を理由にあげている者があった。女子の場合には、家族間の感情的結びつきや情緒的安定感が非行化に影響することを示している。

非行を思いとどまった理由としては、「非行に走っても無意味、自分のためにならない」という自力によるとどまり方が多いことをみても、非行化するかしないかには本人の要因が大きく関わり、それに家庭や友人、社会の要因がともなうのだと考えられる。

どんな環境におかれても大丈夫な少年もあれば、環境次第で良くも悪くもなる少年も存在する。したがって、環境に左右されやすい少年を強い少年に鍛える努力と共に、良い環境を造って行く努力をすることが、我々の務めである。

**【付 記】** 本研究は、横浜国立大学教育学部昭和58年度研究助成基金から、研究助成金の交付を受けて行いました。記して謝意を表します。

一般少年群に対する調査の実施にあたっては、神奈川県教育庁名取毅氏、同堤秀夫氏、同臼井啓一氏、神奈川県立小田原高等学校長小林武氏、神奈川県城山町立相模丘中学校長細野優氏、並びに両校の教職員の方々に多大な御協力をいただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

非行少年群のデータは、非行問題研究会が神奈川県青少年指導者研修センターの委託を受けて行った「青少年非行に関する実態調査」の一部のデータを転用させていただきました。データの転用を了承して下さいました。非行問題研究会代表の横浜国立大学教授依田明氏に厚く御礼申し上げます。ま

た同研究会の構成員の方々にも厚く御礼申し上げます。

#### 引 用 文 献

- 非行問題研究会 1984 青少年非行に関する実態調査——結果報告書—— 神奈川県青少年指導者研修センター
- 品川不二郎・品川孝子 1958 田研式親子関係診断テスト, 及び手引 日本文化科学社
- 総務庁青少年対策本部 1985 昭和59年版青少年白書——青少年問題の現状と対策—— 大蔵省印刷局
- 依田 明 1967 ひとりっ子・すえっ子 大日本図書
- 依田 明 1981 ひとりっ子の本 情報センター出版局
- 依田 明・福島 章 1981 ふたりっ子家族の親離れ・子離れ 有斐閣